令和5年度　多文化共生先進取組事例「体験塾」in佐賀
実施報告（概要）

日 時 ： 令和5年7月20日（木）～21日（金）

参加者 ： 地域国際化協会、自治体より　14名

統括ファシリテーター： 矢冨　　氏（佐賀県国際交流協会　企画交流課長）

研修の概要 ：

「外国人住民とつながる地域社会～技能実習生の支援を例に～」

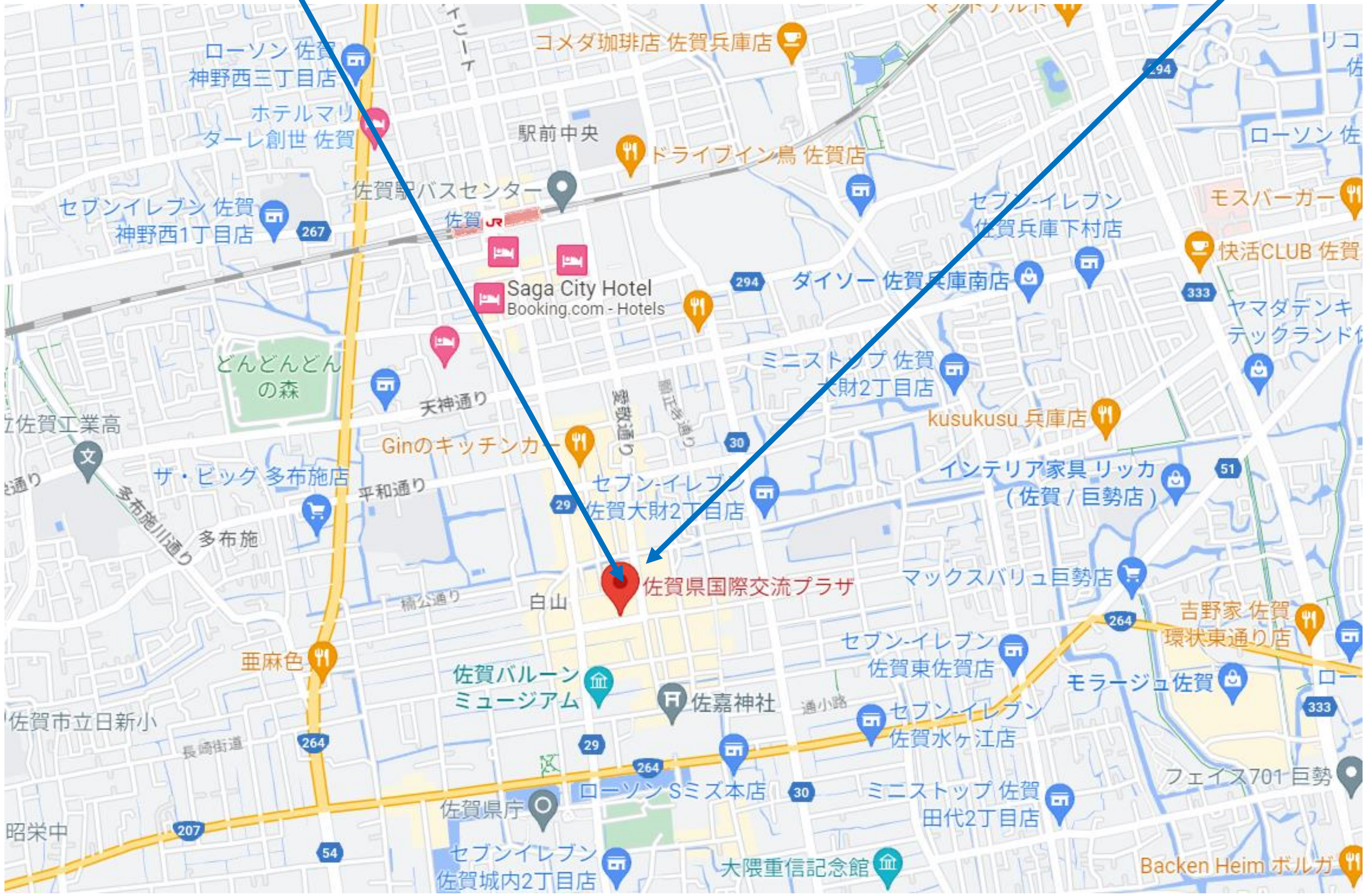
日本在住外国人が増加している現状を踏まえて、技能実習生の支援をはじめ、外国人住民とつながる地域社会に焦点を当て、佐賀県で開催しました。九州地域における技能実習生をはじめとする外国人への支援、外国人コミュニティとの連携方法について学び、各自所属団体でどのように活かすか、ワークショップで掘り下げました。

多文化共生先進取組事例「体験塾」in佐賀 実施報告（概要）

行き先

佐賀県国際交流センター

NPOスチューデント・サポート・フェイス（S.S.F.）



多文化共生先進取組事例「体験塾」in佐賀 実施報告（概要）

プログラム

1日目 ：7月20日（木）

■オリエンテーション

総括ファシリテーター矢冨様から2日間の研修のポイント等についてお話しいただいた後、佐賀県国際課の多文化社会コーディネーター北御門様より、佐賀県の在留外国人の現況・多文化共生施策の講義をいただきました。

←佐賀県国際交流協会にて、オリエンテーションのアイスブレイクを行いました。

■佐賀県の在留外国人の現況・多文化共生施策

佐賀県の外国人市民の現状、佐賀県が実施している多文化共生施策について説明していただきました。

■佐賀県国際交流協会の取組・視察

佐賀県国際交流協会が、外国人住民や技能実習生のために行っている事業等について紹介していただきました。協会内に置いてある多言語リソース、日本語の教材等の閲覧もできました。

佐賀県国際交流協会にて、佐賀県の在留外国人の現況・↑多文化共生施策の講義を行いました。

多文化共生先進取組事例「体験塾」in佐賀 実施報告（概要）

プログラム

１日目 ：７月20日（木）

■コムスタカ―外国人と共に生きる会の取組

技能実習生をはじめとする外国人住民を取り巻く環境と団体の支援内容についてご説明いただきました。団体の窓口には、雇用、社会保障、DV を含む夫婦間のトラブル、子どもの教育、家族の介護、相続、被害者の救済など、外国人住民が抱える多岐にわたる相談が年間約 350 件も寄せられます。

←
佐賀県国際交流協会の視察を行いました。

■よのうづ国際交流の会の取組

大分県佐伯市米水津（よのうづ）地域の外国人技能実習生の支援についてご説明いただきました。佐伯市あまべ商工会が事務局となり、外国人を雇用する地域内の１２ 社１施設とともに、米水津在住の外国人と一緒になって日本語教室、防犯・防災講習会、スポーツ大会などの交流事業を行っています。

佐賀県国際交流協会にて１日目の振り返りを行いました。↑

■北九州国際交流協会の取組

外国人相談窓口に多文化ソーシャルワーカーを配置し、相談内容に応じて関係機関と連携しながら伴走型支援を行っている事業についてご説明いただきました。

多文化共生先進取組事例「体験塾」in佐賀 実施報告（概要）

<u>プログラム</u>
<u>2日目 ：7月21日（金）</u>

■佐賀未来創造基金の取組

社会的孤立の解消や災害・復興支援、地域の防災力向上の仕組みづくりのために、いかに日頃から地域や関係者間でコミュニケーションをとっていくことが大切かを団体の活動を通してご説明いただきました。

■NPOスチューデント・サポート・フェイス（S.S.F.）

S.S.F. では不登校、ひきこもり、非行、ニートなど困難を抱える子ども・若者のために、就労支援、社会参加・職業的自立支援などを行っています。施設内のリソース、子どもたちのサポートをしている様子等を視察できました。

■ワークショップ①・②

講義や訪問先の視察で学んだことについてグループで振り返り、ディスカッション等を通して具体的な施策立案に向けたグループワークを行いました。

NPOスチューデント・サポート・フェイスでの視察↑

ワークショップ①・②の様子 ↑

多文化共生先進取組事例「体験塾」in佐賀 実施報告（概要）

参加者の声

「体験塾」全般について

・多文化共生の推進とはいいつつも漠然としたものしかなく具体的になにをどうすればよいのかイメージが湧かなかったですが、自分がやりたいことも含めて少しクリアになった気がします。このような貴重な機会を与えてくださったクレアやSPIRAのみなさま、参加者の方々に感謝します。ありがとうございました。
・佐賀のエネルギーを感じられる研修でした。地域の状況は違えど、いくつかの大切なヒントをいただきました。何より、実際に動いてみよう、と思えた研修でした。
・他の地域でも自分と似た悩みを持っていると分かり安心しました。また、講義だけでなくワークショップでも参考になる事例を知ることができてとても有意義だった。「外国人の支援」ではなく、地域の一員としての支援を皆が助け合って行っているのが素晴らしいと感じた。いい話だけではなく、目を背けがちな多文化事業の闇の部分の話も聞けたのがよかった。
・豪雨災害の中、体験塾の準備お疲れさまでした。これからも皆で緊密に連絡を取っていきたいです。
・2日間ありがとうございました。たくさんの人と知り合えていい機会でした。

学んだことの活かし方

・まずは頭の中にある二日間に得た知識を整理して職場の人に共有したい。
・ネットワークづくりがなによりも重要だと思うので、まずは外に出て人と会って、顔の見える関係を作って行きたいと思います。
・地域の人を巻き込んだ講座などを開催してみたい。
・最後の発表のとおり、まずは腹を割って話す機会を作りたいと思います。